

Course number		U-LAS24 20002 SO48					
Course title (and course title in English)		ロシア語II B R252 Intermediate Russian B		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,HATTORI FUMIAKI	
Group	Languages			Field(Classification)			
Language of instruction	Japanese			Old group	Group C	Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Seminar (Foreign language) (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・Second semester	
Days and periods	Fri.4		Target year	2nd year students or above		Eligible students	For all majors
[Overview and purpose of the course]							
(文法の仕上がっている諸君を対象に) 文学作品を読む力を養う： これまでにロシア語 I、II で学んだロシア語を活かして、ロシア文学の原典に取り組んでゆく。							
[Course objectives]							
知的鍛錬・教養の向上を念頭に置きつつ、読解力を高め、専門領域でのある程度の情報収集能力を身につけることを目指す。							
[Course schedule and contents)]							
チェーホフやイワン・ブーニン(ノーベル賞作家)の作品を精読する。 受講する学生諸君のレベルによっては、19世紀前半の作家の短編にも取り組んでみたいと考えている。 まずは、アントン・チェーホフの短編『恋について』を取り上げる。 『恋について』は、1898年の発表である。ともに同年の発表の『箱に入った男』、『すぐり』との三部作の三番目の作品である。ある地主貴族の恋の物語を通して、当時の民衆の状態、農村の窮状、そのようなことに対する知識階級の態度などを読み取り、ロシアの文化や社会への理解を深めてゆきたい。 実際の授業では、テキストをブロックに分割し、受講生諸君に割り当てて、精読をする。したがって、丹念な予習が求められる。以下は、大まかな予定である。 1回目 イントロダクション 2回目 田舎の地主貴族の屋敷での恋愛談義の発端 3回目 田舎での孤独な暮らし 4回目 田舎の地主貴族の農地の経営 5回目 名誉治安判事に選ばれる 6回目 ルガノーヴィチ家の人々との交際(1) 7回目 ルガノーヴィチ家の人々との交際(2) 8回目 ルガノーヴィチ家の人々との交際(3) 9回目 恋について(1) 10回目 恋について(2) 11回目 恋について(3)							
Continue to ロシア語II B R252(2)							

ロシア語ⅡB R252(2)

12回目 恋のゆくえ
13回目 恋の結末とエピローグ
14回目 授業の総括

[Course requirements]

Refer to "Handbook of Liberal Arts and General Education Courses".

[Evaluation methods and policy]

平常点（50％）と期末試験（50％）の総合評価。課題の単なる正誤ではなく、取り組み方が真摯なものか等も評価する。

[Textbooks]

プリント配布。

[References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

授業の進行に合わせて、教室で指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業に積極的に参加すること。予習は必須である。

[Essential courses]